

J15b

全天 X 線監視装置 MAXI/GSC で観測された RS CV_n 型星のフレア

坪井陽子、山崎恭平、鶴澤明子、松村和典 (中央大学)、中平聡志 (青学大)、中島基樹 (日本大)、富田洋、上野史郎、松岡勝、川崎一義、鈴木素子、足立康樹、板本康治 (JAXA)、三原健弘、小浜光洋、杉崎睦、中川友進、山本堂之 (理研)、常深博、木村公 (大阪大)、河合誠之、森井幹雄、杉森航介 (東工大)、吉田篤正、山岡和貴 (青学大)、根来均、石渡良二、三好翔、小澤洋志 (日本大)、上田佳宏、磯部直樹、江口智士、廣井和雄 (京都大)、山内誠、大休寺新 (宮崎大)、石川真木 (総研大) ほか MAXI チーム

全天 X 線監視装置 MAXI (Monitor of All-sky X-ray Image) は 1 周 90 分で地球を周回する国際宇宙ステーションに搭載され、2009 年 8 月の運用開始以降、全天モニターを続けている。MAXI に搭載されている GSC (Gas Slit Cameras: ガス比例計数管) は 2-10keV の帯域で 1 日あたり 10-20mCrab まで検出可能であり、高い感度を誇る。よって、従来の All Sky Monitor では検出の難しかった星の X 線フレアを捉えるのに有効なミッションである。我々は、星の中でも活動性の高い RS CV_n 型星に着目し、そのフレアの探査を GSC で進めている。本講演では、その探査結果について紹介する。特に II Peg においては、2005 年 12 月に Swift によって観測されたものと同程度のフレアを確認し、その規模は Young Stellar Object などを含めても最大級であったので、その詳細についても報告する。